

研究テーマ	材料や用具の特性を生かし，創意工夫して制作を行うことで， 達成感を味わうことができる指導の在り方 —中学3年「木彫鏡飾り」の実践を通して—
-------	---

取手市立永山中学校 教諭 岡村真由美

I 研究テーマについて

実際に使うものを、使用するときのことを想像しながらデザインして制作することはとても楽しい。また、それを使用することで長く喜びを感じることができる。是非、生徒に体験させたい活動である。

しかし、スマートフォンやタブレットの普及により、以前にも増して、実際のものを手にして遊んだり、創作活動を行ったりする機会が減っている。また、文房具からおもちゃ、日用品まで様々な工夫された魅力的な商品が増え、しかも通信販売や100円ショップなどで安価で簡単に手に入るようになり、使うものを自分で作ることはかなり減っている。

中学校学習指導要領解説美術編に、A表現の内容(1)デザインや工芸などに表現する活動において、第2学年及び第3学年の目標に「イ、使用する者の気持ちや機能、夢や想像などから独創的に発想し、造形的な美しさ、材料や用具の生かし方などを総合的に考え、創意工夫してつくること。」と書かれている。

「材料や用具」とあるが、その特性は、作品制作の困難さでもある。例えば木彫では、木目に沿って彫ると彫りやすいが、方向によっては彫りにくい場所もある。その時どのようにして彫りにくさを乗り越えるのかは、生徒ひとりひとり異なるデザインと素材であるため 自分自身で向き合わなければならない課題となる。向きを変えて彫る、少しずつ彫る、道具を変えて彫る、デザイン自体を変えるなど様々な手段が考えられる。彫刻刀の使い方も工夫が必要になる。刃を入れる角度が重要になる。それは作業を進めながら実感することができる。困難を乗り越えながら創意工夫して作品を完成させることで大きな達成感を味わうことができる。美術科の目標にある「創造活動の喜び」を味わうことにつながる。

木彫鏡飾りは壁に掛けられるため場所もとらず、丈夫で長く使えるものである。

以上のことから、本研究のテーマを設定した。

II 研究の実際

1 題材 木彫鏡飾り

2 題材の目標

- 作品に興味を持ち、意欲的に制作しようとする。 (関心・意欲・態度)
- 自分なりの、材料や用具の特徴を生かせるデザインを考えることができる (発想や構想の能力)
- 材料や用具の特徴を生かし、工夫して制作することができる。 (創造的な技能)
- 友達の作品の良さに気付くことができる。 (鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 生徒の実態

アンケート (平成28年11月 36名実施)

作品制作は好きですか	はい30	いいえ6		
絵画などの平面作品と彫刻などの立体作品の制作ではどちらが好きですか	立体20	平面16		
彫刻刀で木を彫ったことがありますか	はい34	いいえ2		
彫刻刀で浮き彫りをしたことがありますか	はい28	いいえ6		
彫刻で難しいのはどの作業ですか	デザインを考える 17	彫る 22	ヤスリをかける 1	ニスを塗る 0
(理由 思い浮かばない、デザインと彫り方、完成のイメージが結びつかない、細部が彫れないなど)				

彫刻で楽しみなのはどの作業ですか

デザインを考える 7      彫る 2 4      ヤスリをかける 3      色を塗る 5      ニスを塗る 3  
(理由 使えるものを作るのが楽しい 1 0      形が浮かび上がってくるのが楽しい 1 6  
木を彫る感覚が良い 1 3      ヤスリをかけると表面がきれいになってくるのが楽しい 2  
色を塗るとイメージが膨らむのが楽しい      ニスを塗るとぴかぴかになって楽しい 3 )

アンケートからも授業の様子からも、作品の制作を楽しむことができる生徒が多いことがわかる。

立体作品の制作を好む生徒が半数以上いて、木彫の作品制作を楽しみにしている。特に男子が立体作品の制作を好み、女子は平面作品の制作を好む傾向がある。彫刻刀は多くの生徒が使ったことはあるが、慣れていない。主に小学校で木版画や小物入れの制作を行っている。小学校によっては彫刻刀を使ったことが無いという生徒もいる。中学校でもまだ彫刻刀の使用は経験していない。

## (2) 題材観

日本は自然に恵まれ、昔からたくさんの木が身近にあり、多くの生活用品や工芸品、建築や美術作品に取り入れられてきた。そのため伝統的に木彫の技術に優れている。木は石や金属に比べ柔らかく、加工しやすい。木のぬくもりや、木目の美しさ、木を彫ることの楽しさなど、木の良さを感じさせるためにも、中学校で一度は木彫を体験させたい。中学生は小学生よりも器用になり、力もついて、より自由に彫刻刀を使いこなすことが出来るようになってきている。浮き彫りやかまぼこ彫り、薬研彫りといった技法を使うと、立体的な表現をすることができる。

本校ではこれまで1年生で陶芸、2年生で篆刻、3年生で木彫を行ってきている。木彫は1年生で扱うことが多い題材だが、先輩から話を聞いたり、先輩の作品を見たりして、楽しみにしている生徒が多いので、大きく題材は変えず、3年生で木彫を行うことにした。3年生にふさわしい、より高度なデザインや技術の作品を期待したい。

## (3) 指導観

デザインのしやすさと、作業時間から、八角形のものを使用し、鏡の周りの額部分を彫るようにする。

デザインは彫りやすさを考え、抽象的なものや単純化したものとする。抽象的なデザインに結びつけるため、また、作品の中心に鏡をはめ込むことから自分自身を見つめるという意味もこめてテーマを「心もよう」とする。

必ず、浮き彫りや薬研彫り、菱合い彫り、かまぼこ彫りといった立体的な彫り方を取り入れるようにする。透かし彫りをしたいという生徒、八角形の周りを切って形を変えたいという生徒がいれば許可する。

彫刻刀は右利き用と左利き用があり、最近の彫刻刀はとても彫りやすいものが多いので、各自持つてくるようにして、美術準備室で保管している。彫刻刀が傷み、彫りにくいという場合や、兄弟と一緒に使っていて、持って来ることが出来ないという場合に学校のものを使用させている。

彫刻刀の使用の仕方が分からない生徒が多いので、技法の説明と共に、彫る手順、使う場面、使い方を照らし合わせながら指導する。特に切り出し刀や平刀は使ったことが無い生徒が多いので、よく確認する。

安全面には十分気をつける。必ず、刃先に手や指を置かないように指導する。彫刻台を使用し、手前から奥に向かって彫るよう指導をする。丸刀や三角刀は利き手で彫刻刀を持ち、反対の手を彫刻刀に添えて彫るようにする。

#### 4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
意欲的に作品を制作しようとする。	素材や道具の特性をいかし、自分なりのデザインを考えることができる。	素材や道具の特性に応じて、工夫して作品を制作することができる。	友達の作品の良さを見つけることができる。

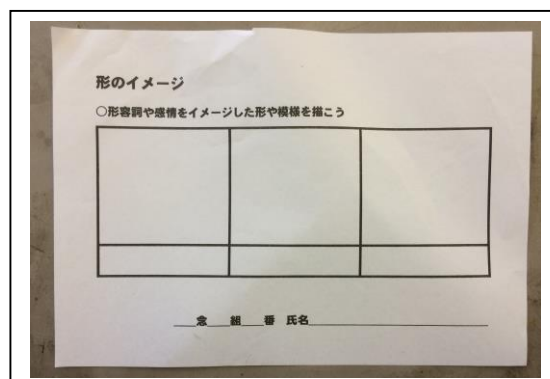
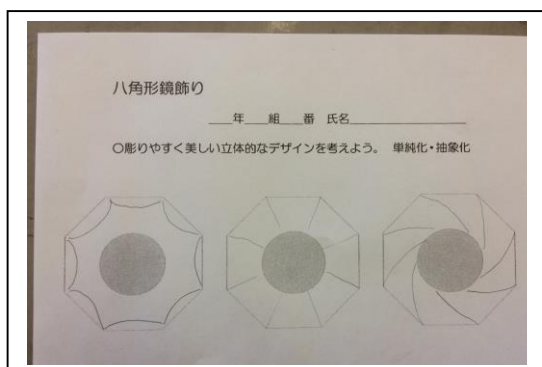
#### 5 指導と評価の計画（8時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ①	デザインを考える。	・彫りやすく、美しいデザインを考えることができる。【 <b>想</b> 】 【観察・ワークシート】
第2次 ④	彫る。	・彫刻刀を使い、立体的に彫ることができる。【 <b>創</b> 】 【観察・作品】
第3次 ①	紙やすりをかける。	・より美しく仕上げようと粘り強くやすりをかけようとする。【 <b>関</b> 】【観察・ワークシート】 ・紙やすりを粗い順に使い、表面をなめらかにすることができる。【 <b>創</b> 】【観察・作品】
第4次 ①	（必要な生徒は彩色をする。） ・ニス塗る。	（作品の雰囲気に合わせて彩色を行うことができる。） ・ムラ無く均一にニスを塗ることができる。【 <b>創</b> 】 【観察・作品】
第5次 ①	・鎖と鏡を付ける。 ・鑑賞をする。	・友達の作品に興味を持ち鑑賞しようとする。【 <b>関</b> 】 ・作品の良さに気づくことができる。【 <b>鑑</b> 】 【観察・作品】

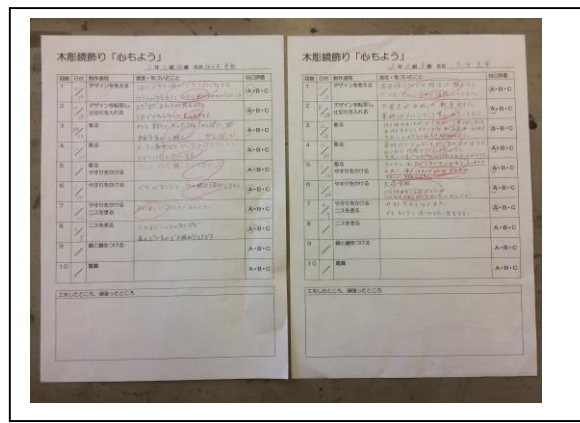
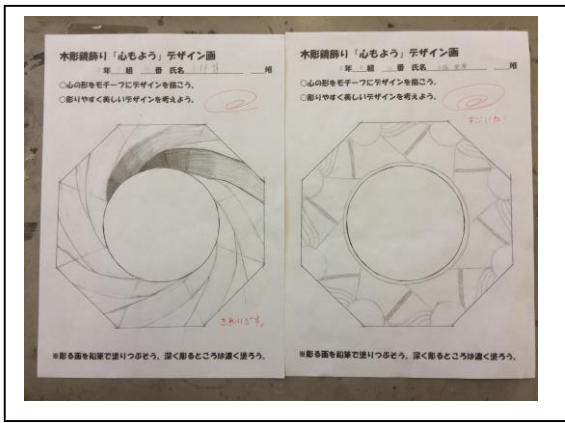
#### 6 指導の実際

デザインを考える前に、喜怒哀楽や「かたい」「やわらかい」など形容詞を線や図形で表すトレーニングを行って、抽象的な表現の練習を行っている。また、デザイン画を描く前に、いくつかデザインを考え、小さく描き、デザインの練習もした。

#### デザイン練習・イメージ練習



デザイン画・制作カード

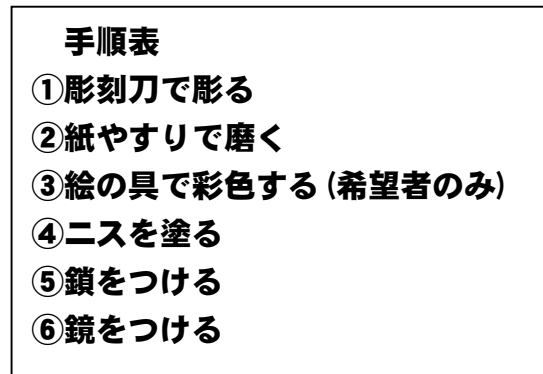
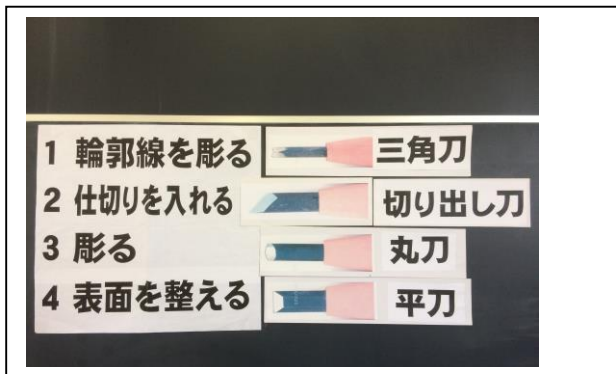


デザインを木材に転写した後、彫る面は鉛筆で薄く塗りつぶし、彫る目印にする。側面に鉛筆で補助線を引き、彫る深さの目安にする。ここまで彫る生徒もいる。

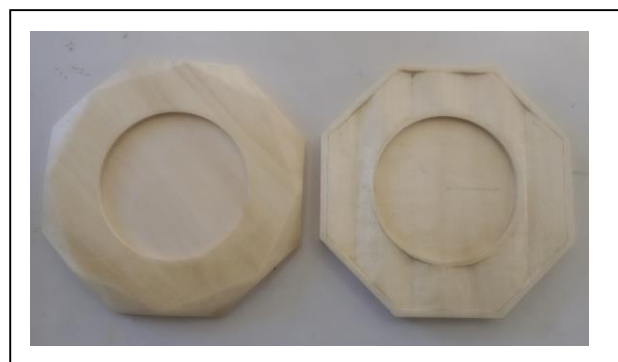


彫刻台、机の手前に引っかけて使用するよう指導する。

彫る手順と使う彫刻刀の種類。仕切りを入れておくと木目が断ち切れ、きれいに彫れる。深く彫らない生徒でも輪郭線は三角刀で必ず彫らせる。



逆目、ならい目、木目の向き。彫刻刀がどんどん深く入り込んでしまうときは木目の向きが合っていない。彫りやすい向きを見つける。

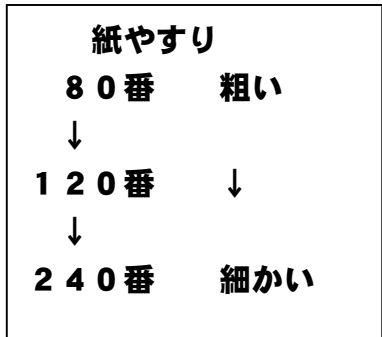
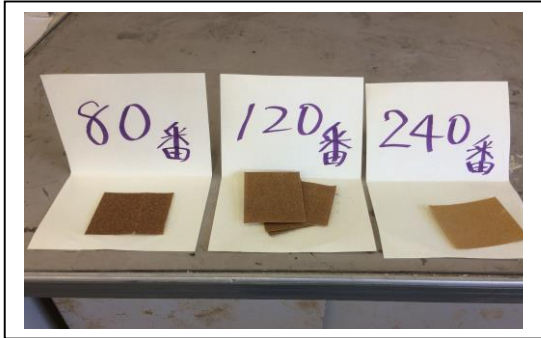


※仕上がりの形も意識して、仕切りを入れる角度を決める。

切り出し刀の持ち方、使い方、向きが分からない生徒が多い。全体での指導もするが、間違えていないか作業中もよく観察する必要がある。平刀も間違えやすい。

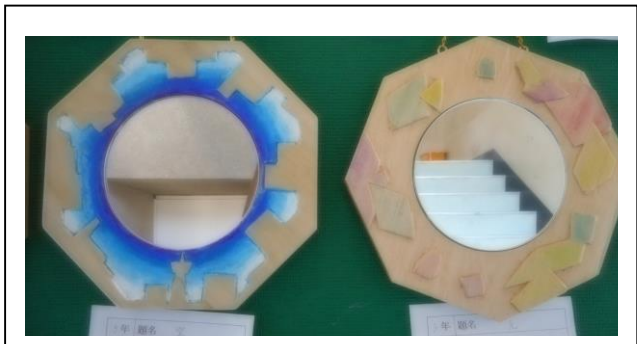
彫刻刀の持ち方は資料集に出ている。力が足りず彫るのに苦労している生徒には、彫刻刀の柄を肩にあてて肩で彫ることも出来ることを伝える。(石を彫る硯職人の技)

ヤスリがけ。紙やすりの番号は小さいほど粗く、大きいほど細かいこと、番号の小さいもの(粗いもの)から使用するよう指導する。



やすりがけで、角がとれすぎ、シャープさが無くなってしまったら、彫刻刀を入れることもある。

アクリル絵の具で彩色する。水を使わずはっきりとした色を付けても、水を多く混ぜて淡い色調で仕上げてもよい。ただし、木目を通じてにじんでしまう場合があるので、筆には少なめに絵の具を含ませるようにする。



水分少なめの彩色

水分多めの彩色



にじんでしまった場面

(削ったり色を重ねたりして対処した)

水性ニス。臭いも少なく、刷毛も洗いやすいので水性ニスを使用する。



ヒートンを差し込む前に、軽く穴を開ける。ネジが利かなくなるので、キリを深く刺しすぎないように、キリに線を引き目印をつけておく。

完成作品



III 研究成果と課題

1 成果 事後アンケート 28名 平成29年2月

- 1 思うような作品を作ることができましたか。  
 よくできた 7      できた 17      あまりできなかった 1      できなかった 0
- 2 達成感がありますか。  
 はい 27      いいえ 1
- 3 木の良さは生かせましたか。  
 はい 23      いいえ 5
- 4 木目の向きはわかりましたか。  
 はい 24      いいえ 4
- 5 彫刻刀の使い方はわかりましたか。  
 もともとわかっていた 5      よりよくわかった 21      わからない 0      その他 2
- 6 木の良さを感じましたか。  
 はい 28      いいえ 0
- 7 制作は楽しかったですか  
 はい 24      いいえ 4  
 理由 ( よい作品ができた 12      彫る感触が良い 10      難しかった 4 )
- 8 制作過程で難しかったのはどの作業ですか。  
 デザインを考える 6      彫る 21      ヤスリをかける 1      彩色する 1      ニスを塗る 0
- 9 難しい理由  
 デザインが思い浮かばない 10      デザインと彫り方、完成のイメージが結びつかない 3  
 細かい部分が彫りにくい 10      木目に合わせて彫るのが難しい 6  
 深く広く彫るための作業量が多い 1
- 10 制作で楽しかったのはどの作業ですか。  
 デザインを考える 12      彫る 13      ヤスリをかける 1      彩色する 0      ニスをぬる 0
- 11 楽しい理由      使える物をデザインするのが楽しい 10  
 だんだん形が浮かび上がってくるのが楽しい 10      木を彫る感覚が良い 9  
 ヤスリがけで表面が綺麗になるのが楽しい 2      彩色するとイメージが膨らむのが楽しい 3  
 ニスを塗るとピカピカになって楽しい 5
- 12 立体的に彫ることができましたか。  
 はい 25      いいえ 3

アンケート結果からほとんどの生徒が作品を完成させて達成感を得られたことがわかる。また、多くの生徒が、木の良さや特徴を生かし工夫しながら制作できたこともわかる。制作の難しさを感じる部分と楽しさを感じる部分が重なっていることから、困難を克服する過程で楽しさを感じることができているのではないかと考えられる。

完成した作品に関して「売り物になりそう！」「それ欲しい！」という感激の言葉が、本人からも周囲からも上がっている。また、鑑賞カードや制作カードからも達成感を得られた生徒が多いことがわかる。

安全面では以前1年生で同じ題材を扱ったときより、けがをする生徒が非常に少ない。3年生で手先が器用になり、けがが少ないことが考えられる。また、彫刻台を使用していることや、なるべく両手で彫刻を使用し、絶対に刃先に手を置かないという指導もより徹底できたことも理由になっていると考える。

## 2 課題

アンケート結果からデザインが思い浮かばず悩む生徒の姿が浮かび上がる。また、彫る過程の難しさは細部の彫り込みと木目の向きを考えながら彫る部分にあるので、それを踏まえ、単純化したデザインを考えられるよう、先が見通せるような指導をしていきたい。

ニス塗りが上手くいかず、ムラになったり、塗り残しがでたり、たれたニスで作品と下に敷いていた広告が貼り付いてしまったりするトラブルがあった。全員が上手く塗れるように、手順表や注意事項を表示したり、塗り終わった生徒に先生役を頼んだりする対策を考えたい。

※参考資料 ・中学校学習指導要領解説美術編（平成20年9月）文部科学省